

令和 6 年能登半島地震災害における
日本医師会災害医療チーム (JMAT) 活動報告 2/6~2/10

テックイースト薬局
近井 宏樹

活動期間 令和 6 年 2 月 6 日~10 日 (実働 7 日、8 日、9 日)
今回、青森県医師会が編成する JMAT 2 チームに
それぞれ薬剤師 1 名の派遣依頼が青森県薬剤師会にあった。

メンバー 1 チーム 4 名 (医師 1 名、看護師 1 名、事務 1 名、薬剤師 1 名)
今回 2 チーム派遣

① 医師 工藤先生 (おきだてハートクリニック院長)
看護師 堀様 (青森慈恵会病院)
事務 柿崎様 (青森県医師会)
薬剤師 鈴木和之先生 (すずらん調剤薬局)

② 医師 的場先生 (青森県立中央病院副院長)
看護師 山田様 (青森県立中央病院)
事務 佐藤様 (青森県医師会)
薬剤師 近井宏樹 (テックイースト薬局)

活動場所 珠洲市地区
金沢市到着日: 石川県庁内 DMAT 本部より穴水町本部行き指示あり
翌日: 穴水総合病院内 DMAT 本部より珠洲市本部行き指示あり

活動内容 避難所巡り
① 医療を必要とする避難者対応
② お困りごとの確認
③ エコノミークラス症候群予防検診のお知らせ配布

クリニック巡り
① 被災状況確認
② 必要とする内容確認

知り得た上記内容については調整本部にて朝晩 Meeting 時に情報共有

【活動を終えて】

災害支援活動は人生初めての参加であった。東日本大震災への支援は通常業務があり行けなかったこともあり、能登半島地震災害の報道等を見聞きし役に立つことができればと漠然と考えていたところ、青森県医師会 JMAT 要請を受けて現地で活動できることに少なからず意欲が湧いてきたが、JMAT というものがどのような活動なのか全くわからず不安しかなかった。

しかし、今回の3日間の活動はとてつもない貴重な体験となり地元青森市で災害が発生した場合、何かの形で貢献できるのではないかと考えている。JMAT の活動目的は色々あるようだが一番は災害発生地域医療の回復、そして復興であると県を代表する災害医療管理監医師から教わった。確かにその通りであると思った。

また、被災地域の情報収集の難しさを目の当たりにした。県庁内 DMAT 本部で得ている情報と現地本部で得ている情報との差が大きく思えた。正確な情報をキャッチし、その情報を得てコントロールするコーディネーターの役割は想像を超える苦労があることも教えていただいた。災害担当のプロでさえ簡単にはできないようである。

感染症の発生源であるトイレ事情は思いの外清潔に保たれている印象であった。もちろん断水状態のため不衛生の場所も存在するが、過去の災害を教訓にトイレカーなるものが各避難所に設置されており、自身も使わせてもらったが水洗で異臭もなく被災者にとってはありがたい存在だと思われた。ワンボックスカーをトイレ専用にする業者があるようで実際に中を見せていただくこともできた。

活動を通して自分自身が感じたことは被災者たちの心理を理解することである。医療人（薬剤師）として支援することはもちろん必須であるが、その前に一人の人間として被災者たちに接することが出来なければ、たとえ医療人であっても当然のごとく拒否されてしまう。実際にそのような光景に出会った。毎日たくさんの団体が避難所等に入出入りされる側にとって、ありがたいことであることは十分承知していながらも長期化することで煩わしさが出てくるのは充分理解できる。

家族、住む家を失っても自分は生きていかななくてはならないという人間の強さ、日本人の誇りのようなものも同時に垣間見ることが出来た。避難所で暮らす人達の笑顔にも出会えた。

我々の活動はわずか3日間であったが、少しは珠洲市地区における医療体制の回復に貢献できたのではないかと思っている。災害によりお亡くなりになってしまった人たちに心よりお悔やみを申し上げると共に、被災者たちが一日でも早く通常の暮らしができるよう心より祈っている。



石川県庁内 DMAT 本部



珠洲市健康増進センター内本部



自宅高齢者診察



ビニールハウス避難所



避難所責任者、食事責任者と
(掲載許可承認)



青森県医師会 JMAT メンバー